

文化芸術の花 咲いわたり



MIRACLE-KUN



美ら島おきなわ文化祭2022

第37回国民文化祭 第22回全国障害者芸術・文化祭

閉会式

令和4年11月27日(日)14:00～ 那覇文化芸術劇場なは一と 大劇場

■主 催：文化庁、厚生労働省、沖縄県、市町村、沖縄県実行委員会、市町村実行委員会 等

プログラム

オープニング

美ら島おきなわ文化祭 2022 の振り返り映像
演舞「船よ疾走れ！」

式典

主催者挨拶 文化庁長官 都倉 俊一
厚生労働省社会・援護局
障害保健福祉部長 辺見 聡
第 37 回国民文化祭沖縄県実行委員会
第 22 回全国障害者芸術・文化祭実行委員会
会長
沖縄県知事 玉城 デニー

大会旗引き継ぎ
次期開催県挨拶 石川県副知事 徳田 博

次期開催県（石川県）アトラクション

いしかわ百万石文化祭 2023PR 映像
演奏「御陣乗太鼓（石川県指定無形民俗文化財）」

グランドフィナーレ



総合司会

狩俣 倫太郎

出身 沖縄県
琉球放送のアナウンサー。英語力を活かした国際会議の司会やバラエティ番組など多岐に渡り活躍する沖縄を代表するアナウンサー。

アシスタント

藤原 聖 (現代版組踊 肝高の阿麻和利 百十踏場役)

阿麻和利の妃役を務める現役高校生。英語も堪能で、日舞、バレエとマルチな才能をもつ。今回初めて司会アシスタント役に挑戦する。

日和 (パラフレーズ ポーカル兼キーボード)

ポジティブユニット「パラフレーズ」のメンバー。毎月ライブや講演に出演し、ハンデキャップを越えてあらゆることにチャレンジするその姿に共感の輪が広がっている。今回はアシスタント役に初挑戦。

オープニング

振り返り映像／演舞「船よ疾走れ！」

37日間の美ら島おきなわ文化祭の総集編として振り返り映像をご覧ください。
また、現代版組踊選抜歌舞団によります幕開け演舞「船よ疾走れ！」をご覧ください。
「HORIZON」は、水平線とか地平線とも訳しますが「新たな沖縄文化の水平線、新たなシマンチュ文化の地平線を目指して」のテーマを基調に、船出の朝をイメージした爽やかで疾走感あふれるパワフルな演舞をどうぞご覧ください。

次期開催県（石川県）アトラクション

加賀百万石の歴史や伝統的な文化の魅力を、大会のPR映像とともに勇壮で力強い和太鼓の演奏により、紹介します。

ごじんじょだいに 御陣乗太鼓（石川県指定無形民俗文化財）

石川県の太鼓文化は、虫送りやお祭りなどの祭礼とともに発展し継承されてきました。なかでも、県の北部にある輪島市名舟町(なふねまち)で継承され、地元出身者しか叩くことが許されていない「御陣乗太鼓」は、国内外に招聘されるなど、多くの人々を魅了しています。



第38回国民文化祭 第23回全国障害者芸術・文化祭

いしかわ百万石文化祭2023

石川県での国民文化祭の開催は、平成4年以来2回目となり、全国障害者芸術・文化祭は初開催となります。大会期間中は県内全19市町で150を超える多彩な文化イベントを開催し、障害のある人もない人も共に参加して、交流の輪を広げていきます。

会期：令和5年10月14日(土)～11月26日(日)＜44日間＞

キャッチフレーズ：『ぶんか けんらん文化絢爛』



いしかわ
百万石
文化祭
2023

グランドフィナーレ

ストーリー

復帰50周年を迎え、新生「ウチナー」の新たな船出の銅鑼が鳴る！新時代の文化は「船」であり、その担い手が「漕ぎ手」たち。そして、新たな時代にふさわしい「新しい漕ぎ手たち」を探す3人のストーリーテラーが登場します。名前もユニークな「赤犬子(あかいんこ)」「オモロ」「クルルンファー」。それぞれが、「三線、太鼓、琉舞、空手」など、沖縄文化を象徴する存在です。でもどうやって探せばいいの？新しい漕ぎ手を？…すると、不思議な力のエーク(権)が羅針盤となって彼らを導きます。さあ！時間も空間もコロナも越えて！仲間さがしの旅が始まります。

ストーリーテラー

赤犬子
(あかいんこ)

尚真王の時代に活躍した歌と三線の名手。15世紀頃、唐の国から初めて沖縄に三線を持ち込んだ人物と言われ、転じて「三線の始祖」「三線の神様」とも呼ばれています。本作では、歌と三線の旅芸人、吟遊詩人として沖縄の心を奏で謳いあげる役回りを担います。



渡久地雅斗

オモロ

神歌集「おもろそうし」から想起された名前で空想上の人物です。本作では太鼓打ちの名人として登場します。琉球舞踊も器用にこなす旅の伴をする赤犬子とのコンビ役として存在感を発揮します。



仲間千尋

クルルンファー

伝統空手「手(ていー)」の型の一つ「クルルンファー」を名前に持つ空手の達人として登場します。赤犬子やオモロとは幼馴染です。「武の舞」は「護身の舞」とも言われ、琉球舞踊と空手の関係がとても深い事を表す象徴でもあります。



井上あすか

第1章 新時代の息吹

オープニングは琉球舞踊や武の舞をメドレーで紹介。民俗芸能の獅子舞も赤犬子の三線やオモロの太鼓で奏でる「チルパンチ(絃を弾く)」でダイナミックにアレンジされ、古くて新しい沖縄芸能の今を演出してまいります。

多良間島の郷友会青年部で結成された「多良間ふしゃぬふエイサー」は、島の伝統的な祭り「八月踊り」の代表的演目「組踊 忠臣仲宗根豊見親」を素材に創作された新しい伝統芸能「組太鼓 大豊見親(うふとういみや)」を披露、八重山地域の収穫を祝う踊り「マミドーマ」のサンバージョンと合わせて、伝統を土壌に花咲く、新たな芸能の息吹を、「ネオ・トラディショナル」の芽吹きをご覧ください。

琉球舞踊メドレー	古典舞踊「四つ竹」～男踊り「前ぬ浜」～空手「武の舞」
民俗芸能	「チルパンチ」と「獅子舞」
組太鼓	「大豊見親」
新民俗芸能	「マミドーマサンバ！」

出演者



現代版組踊選抜歌舞団



龍神伝説



多良間ふしゃぬふエイサー

第2章 チャレンジ・ド・沖縄

「手話パフォーマンス甲子園」では常に上位入賞を果たすほどレベルが高い沖縄の高校生の手話。今回、初めての試みとして4つの高校を中心にした合同パフォーマンスを披露いたします。披露するのは、戦後70周年を記念して創作された楽曲「いのちのリレー（作詞 / 作曲 Kiroro、仲宗根泉）」の平和メッセージを手話パフォーマンスで綴ります。さらに県内の手話文化の新たな展開を図るべく、沖縄出身者も在籍する全国的に大活躍中の「手話エンターテイメント発信団 oioi」を招き、県立沖縄ろう学校をはじめ、高校4校の生徒とも交流の機会を持ちました。今回は、その交流の成果として、沖縄発祥の空手と手話を掛け合わせた「手話空手」もご覧いただきます。

障がい者が主役の音楽イベント「愛音楽(アネラ)音楽祭」からは多くのチャレンジドアーティストが輩出されており、今回出演の「パラフレーズ」もその中の一組です。ハンディキャップを抱えながらも自分たちの音楽スタイルを追求するその歌声は多くのファンを魅了してやみません。今回は「愛音楽音楽祭」に初めてエントリーレグランプリと観客賞のW受賞した最も思い出のある楽曲「Hang in there」を披露いたします。

手話パフォーマンス演舞「いのちのリレー」

映像：県立沖縄ろう学校ワークショップ

手話エンターテイメント パフォーマンス「HAND BEAT」

手話パフォーマンス共演「手話空手 / 型 指文字の手 (てい)」

映像：Kiroro 玉城千春、我如古盛健

バンド演奏「Hang in there」 ※映像：愛音楽音楽祭の軌跡

出演者



真和志高校 手話部



沖縄水産高校 福祉同好会



嘉手納高校 総合学科



中部農林高校 手話ソング同好会



沖縄ろう学校



パラフレーズ (Paraphrase)



手話エンターテイメント発信団 oioi

第3章 老いも若きも未来の宝

若者に限らず高齢者だって「新しい沖縄文化の船」の漕ぎ手であり、新たな沖縄文化の担い手でもあります。「天国に一番近いアイドルユニット」を掲げてメジャーデビューした「KBG84（小浜島ばあちゃん合唱団）」や栄町の「おばあラッパーズ」、読谷村の「読谷ばあちゃん合唱団Z」など、彼女たちのように豊かに老いる秘訣を世界中が注目しています。今回は、高齢者の既成概念を打ち破りはじけている cool で pop なウチナーシルバークルールの最前線をご紹介します。

映像：KBG84、読谷ばあちゃん合唱団Z、宮沢和史
ヒップホップパフォーマンス「いやさーさー」

出演者



嘉手納シニアヒップホップクルー



前川萌（ダンス講師）



PICE3 POPPO（ラップ講師）
（ピースポッパー）

第4章 揺るぎなき「伝統」と躍動する「未来」

世代から世代へ、人から人へと手渡されてきたこのエーク（櫂）のように揺るぎなき伝統と、躍動する未来が、新たな沖縄文化の水平線へとつながっている！躍奉行玉城朝薫が1719年に創作した「組踊 二童敵討」。それから時を経た2000年、勝連城の世界遺産登録を機に始まった「現代版組踊 肝高の阿麻和利」の舞台活動は、地域活性化、人材育成の域を越えて、新たな沖縄文化発祥のジャンルに発展。「現代版組踊シリーズ」として全国17の地域ネットワークを擁するほどに。今回は、テーマソング「肝高の詩」をベースに躍動する現代版組踊と伝統の組踊「あまおへ（阿麻和利役：神谷武史）」のスペシャルコラボバージョン。そして舞台は「この旅の終わりは、新しき道の始まり」をテーマに、ダイナミックな沖縄文化の未来を出演者総踊りによる「ダイナミック琉球」でこの物語を締めくくります。

「肝高の詩 × あまおへ」
「ダイナミック琉球」

出演者

踊り：現代版組踊「肝高の阿麻和利」
神谷武史（組踊実演家）
現代版組踊選抜歌舞団＋龍神伝説能鼓団
多良間ふしゃぬふエイサー
演奏：肝高バンド、パラフレーズ



神谷武史



現代版組踊「肝高の阿麻和利」

エンディング Beyond 2022 沖縄 ～水平線の未来の彼方へ～

不思議なエーク(権)に導かれるかのように、新たな沖縄文化の担い手を探し求めて来た、赤犬子、オモロ、クルルンファーの3人は、この旅の終わりで大切なことに気がつきます。「そうか！一人ひとりがこの船の漕ぎ手！老いも若きも、チャレンジドも世界のウチナーンチュも、誰もが皆、新生沖縄の島を彩る大切な文化芸能の花々なんだ！」。

そして、僕たちの旅は、彼らの旅は続きます、この水平線の未来の彼方へと！

世界的無名人たちの圧倒的感動の舞台を届けたい



演出：平田大一（ひらた だいち）

僕は「演出家」ではありません。「地域おこし」がしたい人であり「島おこし」や「人づくり」をすることに一生を捧げたいと願った人です。ただ「文化を基調とした取り組みをする事」それが地域や人や未来とつながれる最善の方法であり近道だっただけのこと。だから「僕が閉会式の演出」をすることに大きな意味があると思っています。「文化芸術の為の人をつくるのではない、人づくりする為に…地域を元気にするために文化芸術を活用する」この信念は19歳で創作活動を始めたあの頃から今日まで何も変わりません。今回の演目は「美ら島おきなわ文化祭2022」で掲げた4つの基本方針、「かかわる＝県民一人ひとりが文化芸術の担い手」「ひろげる＝多様性の尊重」「つなぐ＝文化芸術の継承」「つたえる＝琉球文化のルネサンス」をストレートに表現した内容そのものです。今日は、僕が愛し尊敬する「世界的無名人たちの圧倒的感動の舞台」その命の寿ぎを是非！ご覧ください。

【プロフィール】

1968年八重山小浜島出身。2000年「現代版組踊 肝高の阿麻和利」の演出家として注目を集める。2001年「きむたかホール館長」、2005年「那覇市芸術監督」、2011年「沖縄県文化観光スポーツ部長」を歴任、2013年から4年に渡り「(公財)沖縄県文化振興会」理事長に就任。2017年6月からフリーランスの「沖縄文化芸術振興アドバイザー」として世界と沖縄をつなぐ活動を展開している。54歳。

美ら島おきなわ文化祭2022 閉会式総合監督：田名真之

嘉数道彦

脚本：新井章仁



文化芸術の花 咲いわたり

問い合わせ先

美ら島おきなわ文化祭2022 沖縄県実行委員会事務局

TEL:098-917-1108 FAX:098-867-4234

E-mail:kokubunsai@pref.okinawa.lg.jp

風景画像提供:OCVB

美ら島おきなわ文化祭

